

JP2000185786

PN - JP2000185786 A 20000704
 PD - 2000-07-04
 PR - JP19980360868 19981218; JP19980289520 19981012
 OPD - 1998-10-12
 TI - STORING CASE FOR BEVERAGE BOTTLE
 IN - UCHIGATA KENJI
 PA - UCHIGATA KENJI
 IC - B65D85/30 ; B65D5/50

JP2000185786

TI - Beverage bottle storage case used in large scale retail store, has coverage board with holes that are surrounded by perforations so that perforations are fragmented while pulling out bottle
 PR - JP19980289520 19981012
 PN - JP2000185786 A 20000704 DW200047 B65D85/30 005pp
 PA - (UCHI:) UCHIKATA K
 IC - B65D5/50 ;B65D85/30
 AB - JP2000185786 NOVELTY - Several holes (6) are provided in the coverage board (2) made of hard board, corresponding to the neck of beverage bottle (20). Perforations are provided surrounding the holes. The coverage board is fixed to casing (1) accommodating the bottles. When the bottles are drawn out from the casing, the perforations are fragmented.
 - USE - For storing beverage bottles in commodity shelf of large scale retail stores.
 - ADVANTAGE - Since perforations surrounding the hole is fragmented during pulling out of beverage bottle, fraudulent done in beverage and bottle is prevented.
 - DESCRIPTION OF DRAWING(S) - The figure shows the isometric view of storage case.
 - Casing 1
 - Coverage board 2
 - Holes 6
 - Beverage bottle 20
 - (Dwg. 1/7)
 OPD - 1998-10-12
 AN - 2000-518592 [47]

JP2000185786

PN - JP2000185786 A 20000704
 PD - 2000-07-04
 AP - JP19980360868 19981218
 IN - UCHIGATA KENJI
 PA - UCHIGATA KENJI
 TI - STORING CASE FOR BEVERAGE BOTTLE
 AB - PROBLEM TO BE SOLVED: To provide a storing case for storing a beverage bottle in which various kinds of bottles are prevented from being present in a mixed state at the channel of distribution or selling locations and further a playing trick against the beverage or bottles is prevented.

- SOLUTION: There are provided an outer box 1, a cardboard shielding plate 2 having a plurality of round holes 6 through which a neck part 21 of each of a plurality of beverage bottles 20 stored in the outer box can be inserted, and breaking portions 4, 8 formed around each of the round holes 6 of the shielding plate. The shielding plate 2 is fixed to the outer box 1 under a state in which their neck portions are being inserted through the round holes 6 after the beverage bottles are stored in the outer box 1. When the bottles are taken out of the storing case, the breaking portions 4, 8 are broken, resulting in that it can be easily acknowledged that the bottles are extracted out of the box even if the bottles are returned back to the storing case. Since the shielding plate 2 is made of cardboard, its cost is less expensive and the taking-out operation of the bottle from the storing case can be carried out approximately in the same manner as that of the prior art.

1 - B65D85/30 .B65D5/50

(09)日本国特許庁(JP)

(02) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開2000-185786

(P2000-185786A)

(43)公開日 平成12年7月4日(2000.7.4)

| | | | |
|--------------------------|-------|---------------|-------------------------|
| (51)Int.Cl. ⁷ | 識別記号 | F I | シーコード [*] (参考) |
| B 6 5 D 85/30 | | B 6 5 D 85/30 | C 3 E 0 6 0 |
| 5/50 | 1 0 1 | 5/50 | 1 0 1 B 3 E 0 9 6 |

審査請求 未請求 請求項の数1 O L (全 5 頁)

(21)出願番号 特願平10-360678

(22)出願日 平成10年12月18日(1998.12.18)

(31)優先権主張番号 特願平10-286520

(32)優先日 平成10年10月12日(1998.10.12)

(33)優先権主張国 日本(JP)

(71)出願人 598130771

内鍋 健二

石川県河北郡七尾町秋浜へ7-3

(72)発明者 内鍋 健二

石川県河北郡七尾町秋浜へ7-3

(74)代理人 100076673

弁理士 西 孝雄

Fターム(参考) 3E060 AA05 BC04 CP16 CC12 CC17

CC18 CC34 DA15 EA09 EA14

3E090 AA09 BA23 BB01 DA01 DA09

DA20 EA01X EA01Y EA02X

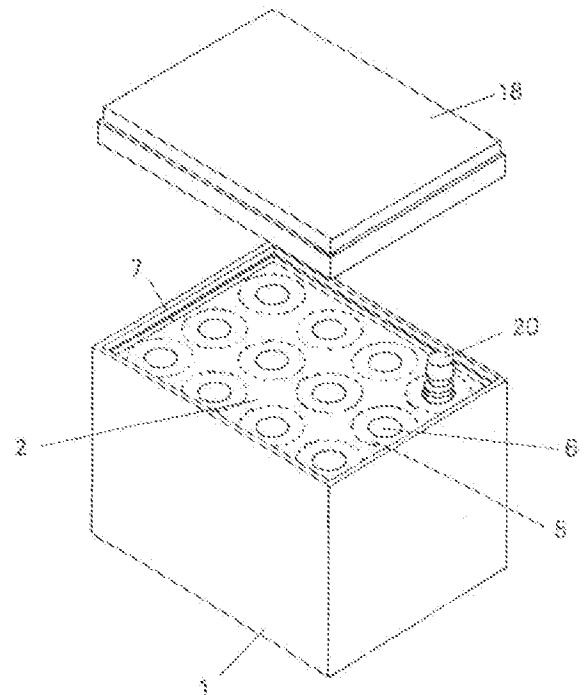
FA16 FA17 FA40 GA12

(54)【発明の名称】 飲料ボトルの収納ケース

(57)【要約】

【課題】 飲料ボトルを収容する収納ケースに関し、運搬や販売の時点でボトルが潰れたり、飲料やボトルに悪戯がされることを防止する手段で適切な技術手段を得る。

【解決手段】 外箱1と、この外箱に収納された複数本の飲料ボトル20の首部21を挿通可能な円孔6の複数個を設けた紙製の遮蔽板2と、この遮蔽板の各円孔6の周囲に形成された破断部4、8とを備え、遮蔽板2は外箱1に飲料ボトルを収容したあとそれらの首部を円孔6に挿通した状態で外箱1に固定されている。収納ケースからボトルを取り出したとき、破断部4、8が破断し、ボトルを戻しても抜き取られたことが容易に認識できる。遮蔽板2は紙製なので、コストが低く、収納ケースからのボトルの取り出しも従来とほとんど変わらない作業で行うことができる。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 外箱(1)と、この外箱に収納された複数の飲料ボトル(2)の首部(3)を挿通可能な円孔(4)の両端面を設けた板紙製の遮蔽板(2)と、この遮蔽板の各円孔(4)の周囲に形成された破断部(4、8)とを備え、遮蔽板(2)は外箱(1)に飲料ボトルを取容したあとそれらの首部を円孔(4)に挿通した状態で外箱(1)に固定されており、飲料ボトル(2)を引き出したときに遮蔽板の破断部(4、8)が破断されることを特徴とする、飲料ボトルの収納ケース

【発明の具体的な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】この発明は、PET（ポリエチレンテレフタレート）ボトルなどの飲料ボトルを取容する収納ケースに関するもので、複数のボトルを収納して搬送し、また大規模小売店などの商品棚に陳列するのに用いる収納ケースに関するものである。

【0002】

【従来の技術】飲料は缶やボトルに封入して販売される。そのボトルの搬送や展示を効率的に行うために、複数のボトルを取容する板紙製のいし合成樹脂製の収納ケースが用いられている。コンビニエンスストアなどの小売店で飲料を商品棚に陳列するとき、複数の単位で販売するような小型のボトルは識別として、通常、収納ケースから取り出した状態で陳列され販売されている。収納ケースが板紙製であるときは、ボトルを取り出した後収納ケースは廃棄される。収納ケースが合成樹脂製であるときは、収納ケースはボトリングメーカーに送り返されて再使用されるのが一般的である。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】販売店の商品棚に陳列された飲料ボトルは、誰でも取り出したり戻したりすることができる。従って商品棚に多種類の飲料ボトルが陳列されているような場合には、客が取り出したり戻したりする間に、飲料の種類が異なるボトルが混在するということが見える。また販売店の店員が混在しているのは、一部の客の愚直で飲料の種類が取り替えられたり、飲用期限の過ぎた古い飲料が置かれたりするという事態が是より得る。さらに甚だしいときには、購入して家に持ち帰ったボトル内の飲料に毒物や薬物を混入して再び元の陳列棚に戻し置くという極めて悪質な愚直がなされ得る。

【0004】コンビニエンスストア等における現在の飲料の販売体制では、上述したような行為が散見に行われたとき、その発見は極めて困難である。またボトル内の飲料に毒物や薬物を混入するという悪質な愚直は、現在の飲料ボトルの流通体系ではその流通途中のどの時点で進行することが可能で、たとえば毒物や薬物が混入された形跡のあるボトルを発見できたとしても、そのような行為が流通及び販売のどの段階で行われたものかを特定する

ことが極めて困難である。

【0005】そこでこの発明は、各種の飲料の入ったボトルが流通や販売の時点で混在したり、ボトル内の飲料やボトル自体に悪質な愚直がされることを未然に防止するとともに、そのような事態が生じたときに速やかに発見することが可能な、手軽にかつ実際に実現できる技術手段を得ることを課題としている。

【0006】

【課題を解決するための手段】請求項1記載の飲料ボトルの収納ケースは、外箱(1)と、この外箱に収納された複数の飲料ボトル(2)の首部(3)を挿通可能な円孔(4)の両端面を設けた板紙製の遮蔽板(2)と、この遮蔽板の各円孔(4)の周囲に形成された破断部(4、8)とを備え、遮蔽板(2)は外箱(1)に飲料ボトルを取容したあとそれらの首部を円孔(4)に挿通した状態で外箱(1)に固定されており、飲料ボトル(2)を引き出したときに遮蔽板の破断部(4、8)が破断されることを特徴とするものである。

【0007】

【作用】飲料の種類が異なるボトルが混在したり、ボトル内の飲料に毒物や薬物が混入されたりするのを、1本1本のボトルを自由に取り出したり元に戻したりすることができるとのである。ところが1本1本のボトルを取り扱えないと、最終段階での販売に支障が生ずる。たとえば複数のボトルをケースに納めたまま最終消費者に販売しようとする、少量の飲料を購入したいという客の要望に応えることができなくなる。また収納ケースにボトルを1本ずつ取り出すことができないようなロック装置を設けると、収納ケースがコスト高になり、ケースからボトルを取り出すときの作業も面倒になる。

【0008】これに対してこの発明の収納ケースは、収納ケースからボトルを取り出したとき、遮蔽板(2)の周囲に設けた破断部(4、8)が破断し、ボトルを収納ケース内に戻すことは可能であるが、遮蔽板(2)の破断部(4、8)が破断していることにより、収納されたボトルの1本1本についてボトルが一旦抜き取られたことがあるかどうかを容易に認識できる。

【0009】遮蔽板(2)を使い捨ての板紙製とすることにより、コストを低く抑えることができ、また収納ケースからのボトルの取り出しも、従来の収納ケースからのボトルの取り出しとはほとんど変わらない作業で行うことができる。

【0010】遮蔽板(2)は、外箱が板紙製であるときは周辺部を外箱に接着し、また外箱が合成樹脂製であるときはクリップやピンによって外箱に固定するようにすれば、ボトルを外箱に収納した後、遮蔽板(2)を外箱に取り付ける作業も容易に可能であり、かつ合成樹脂製外箱の搬送し使用にも問題を生じない。

【0011】従ってこの発明の収納ケースを用いることにより、流通途中あるいは販売店での陳列時に一旦ケースから抜き取られたボトルがケース内に戻されたとき、

それを直ちに判断することができる。客に注意を促すことができるとともに、たとえば流通中において抜き出されたときには一見して運搬板の破断状態が分かるので、作業者が容易にこれを発見することができる。

【0012】

【発明の仕様の形態】以下図面に示す実施例を参照してこの発明の実施形態を説明する。図1ないし図2はこの発明の第1実施例を示したもので、紙張（ダンボール）製の外箱に接着により運搬板を取り付けた構造の例を示したものである。

【0013】外箱1は一般に用いられている構造のダンボール箱で、図1の例では外箱1内に12本のボトル20が収納されるようになっており、運搬板2はダンボール板3と薄紙4とを2枚積層して接着した構造で、ダンボール板3にはボトル20の胴部が通過可能な開口5が設けられており、薄紙4には各開口5の中心に位置する部分に円孔6が設けられている。この円孔6はボトルの首部21が通過可能な大きさである。この運搬板2は開口5を設けたダンボール板3に薄紙4を貼付して、各開口5の中央部に円孔6を設けることによって製作される。運搬板2の四辺は上方に90度折り曲げられており、この折曲部分7において外箱1の内面に貼着される。

【0014】運搬板2は外箱1とは別座に製作し、外箱1にボトル20を収容した後、それらの首部21を円孔6に挿通するようにして上から被せ、接着剤または粘着テープで四辺を外箱1の内面に貼着する。その後外箱1の蓋18を閉める。ボトル20はこの状態で流通し、最終販売店の商品棚には外箱の蓋18を切り取った状態で、外箱1に収容したまま陳列される。ボトルに入った飲料を購入しようとする客は、運搬板2の上方に突出しているボトルの首を掴んで引き抜く。この引き抜き動作により、運搬板の開口5部分にある薄紙4が破れるから、そのボトルを元に戻したとき、後からきた客はそのボトルが一旦外箱から抜き取られたものであることが容易に分かる。

【0015】図3、4は運搬板の他の例を示したもので、この他の例の運搬板2は1枚のダンボール板でできおり、外箱に収納されるボトルの首部を挿通する円孔6が設けられている。そして各円孔6の周囲に放射状に複数のミシン目8または切れ目が設けられている。このよう
40 な構造の運搬板2をその円孔6にボトルの首部21を挿通した状態で外箱1に取り付けると、ボトル20を外箱から取り出したとき、ボトルの胴部によってミシン目8が切り開かれ、第1実施例と同様にボトルが抜き取られたことが一目で分かる。

【0016】図5ないし7はこの発明の収納ケースの第2実施例を示したもので、外箱を合成樹脂製とした場合の一例を示したものである。外箱1は従来一般に用いられている形状の合成樹脂製の箱であるが、その上辺より若干下がった部分に内側に突出する罫11が一体に形成
50

されており、これらの罫11に上下方向のピン孔12が複数開設されている。この罫11の高さは外箱1に収容されるボトル20の首部21の根元の高さにしてある。運搬板2は図1または図3に示したものと同様な構造のものを用いるが、その四辺には第1実施例の折曲部分7の代わりに外箱の前記罫11のピン孔位置に合わせてピン挿通孔13が設けられている。

【0017】この第2実施例のものでは合成樹脂製の外箱1にボトル20を収容した後、収容したボトルの首部21を運搬板の円孔6に挿通した状態で外箱1の内側に運搬板2を嵌め込み、先端に外側を向いた係止突起14とこの係止突起を縮退可能にするスリット15とを具えた止ピン16をピン挿通孔13及びピン孔12を貫通するように挿通する。止ピン16の頭部17と係止突起14との間の寸法Sは、外箱の突片罫の厚さと運搬板2の厚さとはを加えた寸法になっており、止ピン16を一様に挿通すると、ピン孔12を貫通したところで係止突起14が外側に開き、止ピン16を取り外すことができなくなる。運搬板2は複数の止ピン16によって外箱1の内側に固定され、この状態で必要があれば外箱1に蓋18を取り付けて流通させる。

【0018】最終の販売店においては、ボトルを外箱1に収容したまま商品棚に陳列する。ボトル20に入れられた飲料を購入しようとする客は、ボトル20を外箱1から引き出して購入する。このとき運搬板の破断部すなわち前記薄紙4やミシン目8が破断するので一旦引き出したボトルを元に戻したときは後からきた客が容易にそのことを視認することができる。

【0019】外箱1のボトルが全て取り出されたら、運搬板2を破って取り取り、止ピン16は先端部を指で掴んで係止突起を縮退させて引き抜くことができるので、外箱1をボトリングメーカーに送り戻せば、外箱1を再利用することができる。

【0020】運搬板2はボトルを引き出す毎にそのボトルに対応する首部周辺の破断部が破断されるので、再利用することはできない。しかしながらこの運搬板はダンボール板などの再利用可能な安価な材料によって製作されているため、費用負担は軽微である。またこの運搬板は予め破断部が設けられているので、外箱からボトルを1本ずつ取り出すときの障害となることもない。

【図面の簡単な説明】

【図1】第1実施例の斜視図

【図2】第1実施例の要部拡大断面図

【図3】運搬板の他の例を示す斜視図

【図4】ボトルを取り出すときの運搬板を示す断面図

【図5】一部を切り取って示す第2実施例の平面図

【図6】図5のA部断面図

【図7】運搬板の固定構造を示す断面図

【符号の説明】

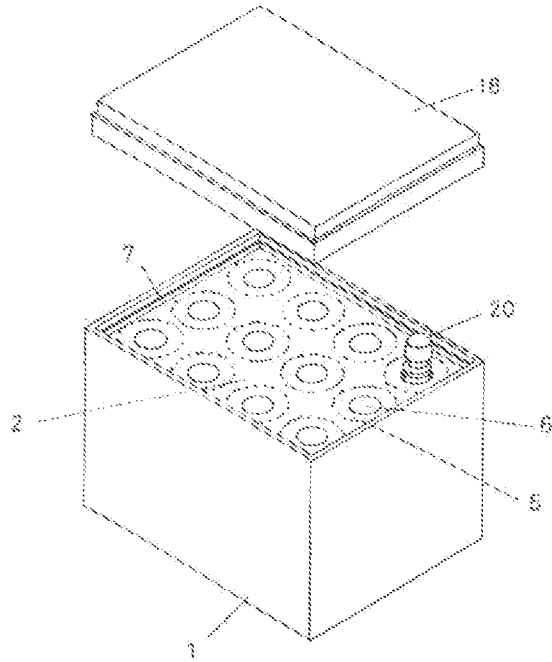
1 外箱

4 濾紙
5 内孔
8 遮光目

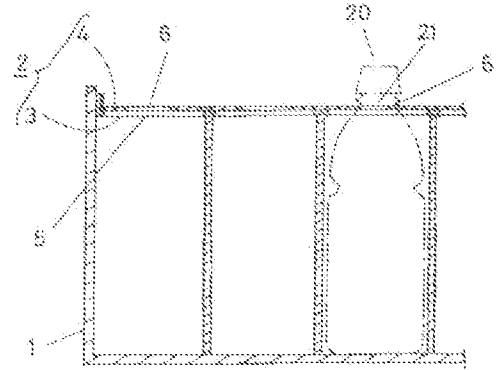
20 穴口
21 筒部

6

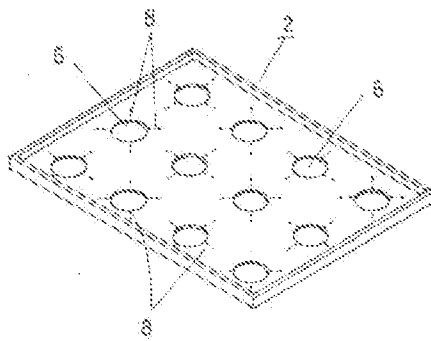
【図1】



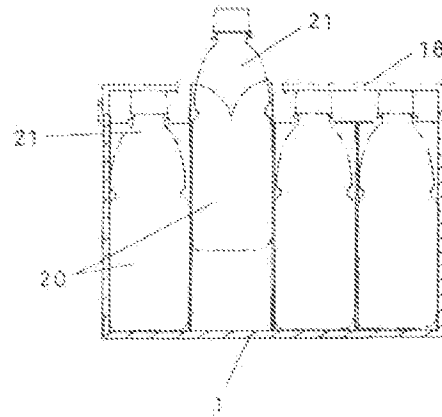
【図2】



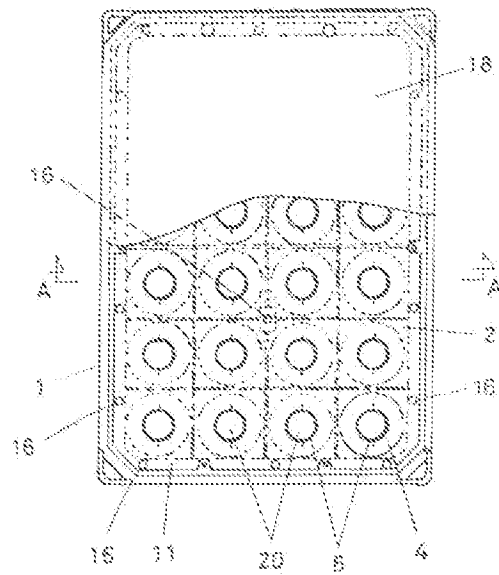
【図3】



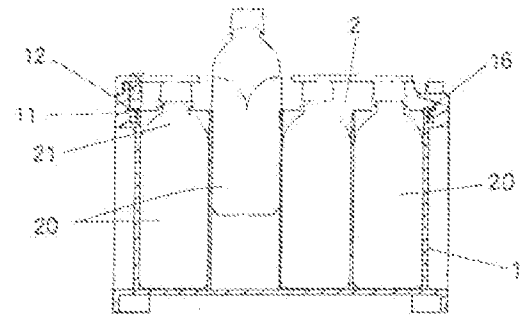
【図4】



【図5】



【図6】



【図7】

